

ロマノフ朝貨幣2種

中村雅之

1. ミハイル・フョードロヴィッチの銀貨

酒井俊昭氏より古代文字資料館に寄託されたロシア・コインが3種ある。第1種は本誌前号で紹介したイヴァン4世のチェンガ銀貨であり、第2種と第3種がここに紹介するロマノフ朝のコペイカ銀貨である。

第2種はロマノフ朝初代のミハイル・フョードロヴィッチ・ロマノフ(在位1613-45年)の貨幣。



表(画像左)には槍を持った馬上の騎士が描かれているはずであるが、わずかに馬の脚と槍の先が確認できるのみである。また、下部(前脚と後脚の間)に造幣地「МОСКВА」が3文字ずつ2行にわたって記されているはずであり、2行目左端の「К」の上部がうっすらと確認できる。

裏(画像右)の銘文は8割ほど見えているが右部が欠けている。ミハイル・フョードロヴィッチの貨幣は銘文のヴァリエーションがかなり豊富であり、綴り・配置・字形の相互に異なるものが恐らく20種類以上は存在する。欠落部分を推定するには、まずどのタイプの貨幣かを同定することが必要となる。

ウェブサイト「Проект посвящен Русской монете」にロシア歴代のコインの図柄と銘文の模写が多数収められており参考にできる。そのサイトの中の資料番号790、811、813の銘文が、本コインの銘文と綴り・配置・字形の面で一致するようである。(ただしそれらの資料の銘文にも欠落がある) それを参考にすれば、本コインの銘文は、最上部に綴りの省略を表すチルダ記号(ロシア語で титло)があったはずで、それに続いて以下のようなになる。括弧内は欠落部分。なお、原資料では語と語がが分ち書きされないが、ここでは空白を設けてある。

最上部 (〜)

第1行 ЦРЬ И В(Е)

第2行 ЛИКИИ КН(СЬ)

第3行 МІХЯІЛ(Ъ ФЕДО)

第4行 РОВИЧ(Ъ ВСЕ)

第5行 Я РУ(СИ)

全体で「全ルーシのツァーリ(皇帝)にして大公、ミハイル・フョードロヴィッチ」となる。最上部のチルダ記号は前述のように本貨幣では欠落して見えない。なお、この記号が表している綴りの省略は冒頭の ЦРЬ(=ЦАРЬ/皇帝)のみならず2行目の КНСЬ(=КНЯСЬ=現代語 КНЯЗЬ/公)にも及んでいるようである。さらに興味深いことに、冒頭の ЦРЬ においてはЦとРが合字として一文字で記されている。母音省略や合字という綴りの簡略化は、単にスペースの節約というよりも、聖なる称号への敬意の表れ(漢文資料における抬頭のごときもの)と見なすべきなのであろう。

「大公」の「大」にあたる ВЕЛИКИИ においては、等価である ИとІのいずれを用いるか、あるいは重ねるかによって、他の同種のコインでも綴りが様々である。現代語は великий。

3行目の「ミハイル」の部分も他の同種のコインでは「МІХЯІЛЪ」の他に「МІХЯІЛО」「МИХАІЛ」「МИХАИЛО」など多くのバリエーションがある。このように皇帝名でさえ綴りが一定していないのであるから、他の語において綴りにゆれがあるのも驚くに当たらないのかも知れない。ただし、МІХЯІЛЪ(ミハイル?)と МИХАИЛО(ミハイロ?)のように発音まで異なるように見えるのは不可解としか言いようがない。現代語では Михаил と綴られる。

4行目から5行目にかけての ВСЕЯ РУСИ(全ルーシの)は「全ルーシ(現代語 вся Русь)」の生格形であるが、変化形は古風である。現代語は всей Руси。

2. ピョートル・アレクセイヴィッチの銀貨

第3種は、ロマノフ朝第5代の君主にして初めてインペラートル(皇帝)を称したピョートル・アレクセイヴィッチ(1672-1725)、いわゆるピョートル大帝の銀貨である。



この時代のコインでは銘文が全て見えるものはほとんど(全く?)なく、本貨幣も全体の3分の1程度しか見えない。1コペイカの重さがイヴァン4世時代の4割程度になった結果、銘文を記すスペースが確保できなくなった。それでも皇帝名の一部分が確認できれば、どの時代の貨幣かはかろうじて分かる。ウェブサイト「Проект посвящен Русской монете」に収められた多数の模写を頼りに、銘文を示すと以下の通りである。括弧内は欠落部分。語と語の分かれ書きを施してある。

最上部 (～)

第1行 (ЦРЬ И ВЕ)

第2行 (ЛИК)И (КНА)

第3行 (СЬ П)ЕТР(Ъ Я)

第4行 (ЛЕЃ)ІЕВИ(ЧЪ)

第5行 (ВС)ЕА Р(ѿ)

第6行 (ССИ)

全体で「全ルーシのツァーリ(皇帝)にして大公、ピョートル・アレクセイヴィッチ」となる。「А」はグラゴル文字に由来するもので、18世紀前半の文字改革で「Я」に統一されることになる。

参考文献:

小林潔 2004, 『ロシアの文字の話』, 東京: 東洋書店.

ウェブサイト「Проект посвящен Русской монете」(<http://www.silver-copeck.ru/>)